

総合科学技術会議 基本政策専門調査会

「最近の注目すべき変化  
及び今後の展望」

平成17年1月26日

# 「最近の注目すべき変化及び今後の展望」 - 目次 -

## 第2期期間中(2001～2005年度)の情勢変化

### 2. 「国際競争力があり持続的発展ができる国」に関する情勢変化

(1) 技術革新と我が国経済(競争力、生産性)	13
(2) 国際競争の激化(アジア諸国・欧米等)	17
(3) 技術革新モデルの進化	22
(4) イノベーション政策の進展	24
(5) 産学官連携の状況	27
(6) ベンチャー企業(研究開発型)の状況	30
(7) 研究開発人材の流動化の状況	32
(8) 日本のソフトパワー - Cool Japan -	34

### 1. 「知の創造と活用により世界に貢献できる国」に関する情勢変化

(1) 国際的科学賞(ノーベル賞等)受賞者の輩出	2
(2) 世界におけるわが国の論文数、被引用数の状況	3
(3) 知識基盤社会・ネットワーク社会の本格到来	4
(4) サイエンスとイノベーションの重なり合い	5
(5) 生命倫理に関する議論	7
(6) 科学技術に関する日本の魅力	8
(7) 科学技術への関心の低下	9
(8) 子供の学力・意欲の低下	10
(9) 男女共同参画 - 女性研究者の状況 -	11

### 3. 「安心・安全で質の高い生活のできる国」に関する情勢変化

(1) 安心・安全で質の高い生活に関する国民意識	36
(2) 健康	39
(3) 新興・再興感染症への対処	40
(4) BSE等食の安全性への問題	42
(5) 医療安全	43
(6) 大規模災害への対処	44
(7) 社会・産業インフラ	45
(8) 生活安全	47
(9) 国際テロリズムとわが国を取り巻く安全保障環境	48
(10) ネットワーク社会におけるプライバシー・セキュリティ問題	49

## 第3期期間中(2006～2010年度)及びそれ以降に想定される情勢変化

(1) 国内人口減少局面へのシフト(少子高齢化、製造技術人材・若手人口の減少)	52
(2) 我が国の財政の問題(2010年初めの基礎財政収支均衡目標、家計貯蓄率と資金循環)	56
(3) 世界の人口増加(水、食糧等資源需給の逼迫)	58
(4) 環境・地球温暖化にかかる問題	59
(5) エネルギー・資源にかかる問題	60
(6) 国際情勢の変化(BRICs諸国の台頭)	62

**第2期期間中(2001～2005年度)  
の情勢変化**

**1. 「知の創造と活用により世界に貢献  
できる国」に関する情勢変化**

## -1-(1) 国際的科学賞(ノーベル賞等)受賞者の輩出

### ノーベル賞

白川 英樹	2000年 化学賞	筑波大学
野依 良治	2001年 化学賞	名古屋大学
小柴 昌俊	2002年 物理学賞	東京大学
田中 耕一	2002年 化学賞	島津製作所(民間)

### ウルフ賞

小柴 昌俊	2000年 物理学賞	東京大学
野依 良治	2001年 化学賞	名古屋大学
佐藤 幹夫	2002年 数学賞	京都大学

### 日本国際賞

石坂 公成	2000年 (医学)	ジョンズ・ホプキンス大学
小川 誠二	2003年 (医学)	ベル研究所(民間)
本多 健一	2004年 (化学)	東京大学
藤嶋 昭	2004年 (化学)	東京大学

注: 所属は該当する研究を実施したときの所属機関。

### ガードナー国際賞

小川 誠二	2003年 神経科学部門	ベル研究所(民間)
-------	--------------	-----------

### ベンジャミン・フランクリン・メダル

飯島 澄男	2002年 物理学賞	NEC(民間)
中村 修二	2002年 工学賞	日亜化学(民間)
小柴 昌俊	2003年 物理学賞	東京大学

### キングファイサル国際賞

中西 香爾	2003年 科学賞(化学)	コロンビア大学
-------	---------------	---------

### ロベルト・コッホ賞及びゴールドメダル

岸本 忠三	2003年 (医学)	大阪大学
審良 静男	2004年 (医学)	大阪大学

(平成16年4月現在)